

第 2 回荒川上流部改修 100 周年実行委員会

日時:平成 31 年 2 月 20 日 10:30～11:30
場所:さいたま新都心合同庁舎 2 号館14F
災害対策本部室

【議事要旨】

1. 開会

(古市委員長)

- ・荒川上流部改修 100 周年の取り組みに関して、委員の皆様の協力の下、昨年 2 月より巡回パネル展の開催や、11 月 21 日には 100 周年シンポジウムを盛大に開催することが出来、感謝。
- ・荒川上下流の団体がこのように一同に集まる会議は、防災関係の会議を除けば初めてであり、一定の成果が出たと考える。こういった形で、荒川を軸とした取り組みやきっかけとなるテーマについて話し合う場ができればと考えるため、後ほど議論いただきたいと考える。

2. 議題

1) 100 周年に伴うこれまでの取り組み内容について(報告)

- ・事務局により、100 周年の取り組みについて説明。
- ・委員からの意見は、下記のとおり。

(古市委員長)

- ・シンポジウム当日は、多くの方に出席いただけた。また、川越市長を始め、戸田市長、和光市長、吉見町長にも出席いただき、重ねてお礼申し上げる。
- ・100 周年に関して、多くのイベントを開催することが出来た。関係機関と連携、協力し、行ったことで非常に発信力が強まったと考えるが、一方、人手が限られる中、手作り感の多いイベントが大半を占めており、もう少しこういうことがやれたらと思うこともある。今後の広報の取り組み、皆様と協力していく取り組みに活かしていきたい。

(川越市)

- ・荒川上流部改修 100 周年のイベントとして、川越市にて、巡回パネル展のオープニングセレモニーや川越市やまぶき会館にてシンポジウムを行っていただき、市民の方々が荒川を身近に考える良い機会だったと思う。川越市長も、荒川の近くで幼少期を過ごされたということで荒川に対して強い思いを持っており、こういった取り組みを沿川の方々と連携して行うことが出来たこと、また、こういった取り組みを続けていくことは、非常に有用なのではと考える。

(鴻巣市)

- ・「川幅日本一」ということで本市もPRの一つとして荒川を使わせていただいている。その他、荒川の河川敷でポピー祭りやコスモス祭り、また花火大会も開催しており、市内外の方に親しんで

いただいている場所になっている。その一方、荒川の堤防が切れ、洪水が起こったという歴史もあるため、今回の改修 100 周年のPRをすることは、市民の方にとっても、親しみを感ずると共に、改修の必要性を感じていただけたのではないかと。

(東松山市)

・当市においては、荒川の支川である都幾川、市野川を有しているが、近年の異常気象により毎年のように避難勧告を発令しているのが実情である。今回の 100 周年事業として、巡回パネル展を実施し、普段見ることが出来ない写真などで、市民の意識啓発につながったのではと考える。

(桶川市)

・桶川市は、荒川河川敷にある飛行場を活用したフライト体験をふるさと納税の返礼品として取り上げるなど、飛行場をこれまで以上に地域の資源として発信していくことを考えている。今後の 100 年を考えていく中で、河川の中の資源についてもしっかり打ち出していればと考える。

2) 荒川上流部改修 100 周年実行委員会の今後のあり方について

- ・議論の結果、「荒川上流部連絡調整会議」を設置することで、承認された。
- ・「荒川上流部連絡調整会議 規約」附則について、本日、平成 31 年 2 月 20 日付けとする。
- ・委員からの意見は、以下のとおり。

(二瀬ダム)

・埼玉県の一番上流は秩父地域であるが、地元の方に意見を聞いていると、川は上流から下流へ流れていく中で、役割はそれぞれあるが、中流部、下流部の人々ともっと連携を深めていきたい、というのが上流の意見としてある。今回、改修だけでなく、荒川流域全体で物事を見ていき、よい情報発信の場になるということであれば、場合により、上流地域の自治体にも紹介して良いのではと考える。

(古市委員長)

・今回の 100 周年実行委員会は、100 年前の荒川上流部改修の対象地域を範囲としているが、今後のこの会議を続けていく場合、秩父地域の自治体の方が関心をもっているのであれば、輪を広げていっても良いのではと考える。また、秩父に限らず、入間川水系の自治体や荒川下流域についてもあるのかもしれない。ただ、今回の会議で議論すると、論点が発散するため、この連絡調整会議を賛同いただいた後、会議を進めていく中で、関心がある自治体にその都度入っていただくこととすればと思う。

(戸田市)

・今回の調整会議について、今後国からの情報発信などに使う会議とのことだが、現段階で、来年度この会議を開くために進めていることや、具体的なテーマがあるのであれば教えてほしい。

➤具体的なテーマをお示しするものはないが、事務局の構想としては、100 周年の取り組みの中

で行った「インフラツーリズム」などの現場見学会において、ルート上に市町の見どころがあれば、その場所も併せて見学することで、河川だけでなく、沿川のことを知っていただく機会ができることから、そのような広報に関するテーマで議論することを、第1回の会議でできればと考える(事務局)。

(板橋区)

- ・規約案の目的について、「上流域」と書かれているが、板橋区や北区は「上流域」ではなく、「下流域」という意識を持っている。今後、この会議が一人歩きしていったとき、「なぜ板橋区が上流なのか？」との声がいずれ起こる可能性があることから、どこかの記載に「上流域」に対する説明があれば、間違えることがないため、検討いただきたい。

(荒川下流河川事務所)

- ・「荒川上流部」は改修工事を指しているため、目的の「上流域」とは意味合いが全く違うと考える。もともと構成員は「中流域」に入る方々であるため、名称の「上流部」については問題ないのではないかと考える。

(古市委員長)

- ・この規約における「上流部」というのは「荒川上流部改修で実施された赤羽より上流の区間である」という定義の中で、ネーミングと規約の整理をさせていただきたい。
- ・第2条目的の「上流域」の記載を、「上流部」に修正させていただく。

3. 閉会

以上